

専任教員の教育・研究業績

所属 スポーツ科学部	職名 教授	氏名 川島 康弘	大学院における研究 指導担当資格の有無	無	
<b>I 教育活動</b>					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
(1) レポート提出		令和元年～令和5年	授業内容の理解度を高めることを目的に課題を与え、数回のレポート作成させ、提出させている。		
(2) 視聴覚教材の活用		令和元年～令和5年	PCのプレゼンテーションソフトにより、視聴覚教材を作成し、授業内容の理解度を高めている。		
(3) 「学生による授業評価」の実施とそのリフレクションの提出		令和元年～令和5年	FD委員会による「学生による授業評価」を受け、リフレクションを行うとともに授業展開について検討した。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
(1) 大阪体育大学教員免許更新講習2018テキスト		平成30年12月	授業に役立つ運動の仕組み、水泳・水中運動の基本動作とその指導法について解説した。		
(2) 権第21号		令和元年3月	1996年より本学コーチング系研究グループが中心となって、運動部の指導や問題点、スポーツパフォーマンス向上に役立つ理論や方法などを纏めて作成している。コーチングコース専攻学生の副読本として使用している。		
(3) 臨海実習テキスト		令和元年6月	野外活動実習の一つである「臨海実習」の授業テキスト。		
(4) 権第22号		令和2年3月	1996年より本学コーチング系研究グループが中心となって、運動部の指導や問題点、スポーツパフォーマンス向上に役立つ理論や方法などを纏めて作成している。コーチングコース専攻学生の副読本として使用している。		
(5) 体力トレーニングの理論と実際 (第2版) 大修館書店		令和3年3月	本学の体力トレーニング論担当教員が分担執筆し、出版した著書第3, 6, 9, 10, 11章を執筆した。		
(6) 権第23号		令和3年3月	1996年より本学コーチング系研究グループが中心となって、運動部の指導や問題点、スポーツパフォーマンス向上に役立つ理論や方法などを纏めて作成している。コーチングコース専攻学生の副読本として使用している。		
(7) 臨海実習テキスト		令和3年6月	野外活動実習の一つである「臨海実習」の授業テキスト。		
(8) 権第24号		令和4年3月	1996年より本学コーチング系研究グループが中心となって、運動部の指導や問題点、スポーツパフォーマンス向上に役立つ理論や方法などを纏めて作成している。コーチングコース専攻学生の副読本として使用している。		
(9) 臨海実習テキスト		令和4年6月	野外活動実習の一つである「臨海実習」の授業テキスト。		
(10) 権第25号		令和5年3月	1996年より本学コーチング系研究グループが中心となって、運動部の指導や問題点、スポーツパフォーマンス向上に役立つ理論や方法などを纏めて作成している。コーチングコース専攻学生の副読本として使用している。		
(11) 臨海実習テキスト		令和5年6月	野外活動実習の一つである「臨海実習」の授業テキスト。		
(12) 権第26号		令和6年3月	1996年より本学コーチング系研究グループが中心となって、運動部の指導や問題点、スポーツパフォーマンス向上に役立つ理論や方法などを纏めて作成している。コーチングコース専攻学生の副読本として使用している。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
スポーツ教育学科コーチ教育コース長		平成27年4月～平成30年3月	コース長として、教育活動に取り組んだ。		
臨海実習主任		平成30年～令和5年	実習主任として、プログラムの立案から授業運営を行った。		
<b>II 研究活動</b>					
著書 (共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
体力トレーニングの理論と実践	大阪体育大学体力トレーニング教室編	17～27頁, 111～124頁, 131～140頁	大修館書店	東京	平成27年7月
体力トレーニングの理論と実践 (第2版)	大阪体育大学体力トレーニング教室編	19～29頁, 80～83頁, 113～126頁, 130～136頁, 137～146頁	大修館書店	東京	令和3年3月
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)					
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
中学生の水泳授業におけるクロールの指導法に関する研究 一知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を結び付ける指導の試み一	川島康弘、梅垣明美、小川帆乃香	大阪体育大学紀要	第49巻	1～18	平成30年3月
資料論文					

題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
大学クラブ活動性における「一次救命処置」及び「緊急時対応計画」の学習経験に関する調査	有吉晃平、藤井均、川島康弘、中山健、曾根裕二、陳洋明	大阪体育大学紀要	第50巻	103～111	平成31年3月
大阪成蹊大学教育学部保健体育教育コースにおける学生の水泳教育に関する実態調査	外林大輔、北村優弥、秋原悠、川島康弘	大阪成蹊教職研究	第3号	59～64	令和2年2月

その他（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）

区分	題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
選択	大阪体育大学学生の体力を測るー2022年度 体力トレーニング論・同実習編ー	共 岡村修平、足立哲司、川島康弘、比嘉靖、高本恵美、松尾元太、中西啄真、高橋篤志、山東悟	大阪体育大学紀要	第54巻	63～71	令和5年1月
選択	大阪体育大学学生の体力を測るー2023年度 体力トレーニング論・同実習編ー	共 足立哲司、比嘉靖、松尾元太、中西啄真、岡村修平、藤田和樹、川島康弘	大阪体育大学紀要	第55巻	71～82	令和5年12月

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国内(一般演題)	令和5年10月	日本水泳・水中運動学会	Anaerobic critical velocityと距離別パフォーマンスの関係	九州共立大学	佐藤大典、山下直之、草薙健太、水上拓也、川島康弘、三島隆章
国内(一般演題)	令和6年3月	日本コーチング学会	競泳におけるAnaerobic critical velocityとウィングテストの関係	朝日大学	佐藤大典、山下直之、尾関一将、川島康弘、三島隆章、貴嶋孝太

科学研究費等の取得状況

科学研究費/その他の助成金/外部資金

区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額(期間内の総額)
選択			選択		

特許

特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国
						例：日本

### Ⅲ 加入学会および社会における活動

期 間	内 容
加入学会	
平成3年～	日本体育学会会員
平成10年～	日本水泳・水中運動学会会員
平成10年～	日本バイオメカニクス学会会員
平成30年～	日本学校保健学会会員
令和3年10月23日～24日	日本水泳・水中運動学会 2021年次大会会長
社会的活動	
平成30年11月～令和5年11月	大阪府高齢者大学校の講師、大阪府が開催してきた講習会をNPO法人が受け継ぎ行われている本講習会の講師として、実技と講義を担当した。
平成29年1月～令和元年1月	教員免許更新講習の講師、本学が行っている教員免許更新講習の講師として「水泳の授業づくり」を担当した。

### Ⅳ 管理活動

期 間	内 容
委員会活動	
令和元年4月～令和2年3月	FD委員会教員研修実施部会長
令和3年4月～	キャリア支援委員会
令和5年4月～	体育学部入試委員会
特別プロジェクト活動	
平成〇年〇月～平成〇年〇月	

### Ⅴ クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	水上競技部	部	2. 役職	2013～2015年女子部コーチ/2016年監督/2017年 部長/2018～2020年部長・女子監督2021年～ 部長・女子部コーチ	3. 部員数	50 人
4. 現場指導の頻度	選択	① ほぼ毎日	② 週3日	③ 週1日	④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導	⑤ 全く関与していない
5. 合宿指導	年間合宿回数：	2 回	延べ日数：	10 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取組んでいる	②ある程度取組んでいる	③あまり取組んでいない	④全く取組んでいない

7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所
	日本選手権水泳競技大会	4月1週目(7日間)	東京
	JAPAN OPEN	5月3週目(3日間)	東京
	関西学生チャンピオンシップ水泳競技大会	5月4週目(2日間)	和歌山
	関西学生選手権水泳競技大会	7月3週目(3日間)	和歌山
	日本学生選手権水泳競技大会	9月1週目(3日間)	
	FINAワールドカップ東京大会	11月3週目(2日間)	東京
	その他、近畿圏での記録会等		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成 績	場 所
平成30年7月27～29日	第54回関西女子学生選手権水泳競技大会	個人優勝2名、総合第4位	大阪プール
平成30年11月9～11日	FINAワールドカップ・東京大会	女子個人出場2名	東京辰巳国際水泳場
令和元年7月26～28日	第55回関西女子学生選手権水泳競技大会	800mフリーリレー第2位、総合第4位	大阪プール
令和2年9月21～22日	関西学生秋季AUTUMN CHALLENGE	女子個人第1位3名、400mFR第1位、第2位6名、第3位3名	大阪プール
令和3年7月23～25日	第56回関西女子学生選手権水泳競技大会	個人優勝1名、総合第4位	大阪プール
令和3年5月21～23日	JP2021 JapanPara水泳競技大会	100m平泳ぎ(SB8) 優勝	横浜国際プール
令和3年8月25～9月3日	パラリンピック東京2020	100m平泳ぎ(SB8) 第6位	東京アクアティックセンター
<b>VI 賞罰 (職務に関する賞罰)</b>			
年 月	受賞等機関名	内 容	備 考